



は せ がわ ゆき こ
長谷川 幸子

に ほんきょうさん どう つ し ぎ だん
日本共産党津市議団

特定健診の受診率アップに向けた取り組みを

問 丈夫で長生きできる社会は誰もの願いである。早期発見・早期治療をモットーに、特定健診の受診率を高めることが大切である。

現在、特定健診の自己負担額は1人500円、非課税世帯は無料であるが、全てを無料化することで、所得判定作業の事務も減り、その分、健診期間の延長が可能になり、受診率の向上につながるのではないかと考えている。

答 特定健診の無料化については、平成29年8月時点で、県内では10市町が実施しており、無料化により、受診率が約5%向上すると聞いている。しかしながら、県内には、1,000円の市町や、津市のような限定した無料化すら行っていない市町もあり、受診料について後塵を拝しては

いないと考えている。また、特定健診の実施期間については、県内全ての市町が三重県医師会と契約し、7月から11月までとなっている。以前に期間延長の要望をしたことがあるが、12月以降はインフルエンザ等感染症が流行する時期であり、受診者への感染の影響等を考慮して、また、健診委託料の支出を実施年度内予算で行うため、この期間での実施となっている。

●その他の質疑・質問●

- 健康づくり運動のさらなる広がりを
- 公園に健康遊具設置やウォーキングコース整備など、身近で気軽に運動できる場所の確保を
- 予防接種への助成を
- 社会進歩につなげる男女共同参画の推進を
- 市営住宅の施設の一部が台風により隣家の車庫の中の車を直撃したが、その補償は など



▲公園に新設された健康遊具（上浜南公園）



お か むら たけし
岡 村 武

し せい かい
至 誠 会

市民の幸せは中核市にあるのでは

問 津市が中核市に移行する場合、市民にとってのメリットとデメリットは何か。

また、平成18年1月に10市町村で合併する以前に、当時の津市長は、「合併して中核市を目指す」と言っていたが、中核市への移行に対する現市長の思いは。

答 中核市に移行すれば、県からの権限移譲により、現在は県と市で別々に行っている事業を、市が一体的に実施することができるほか、事務手続きの迅速化が図られ、市民サービスの向上につながる。一方で、保健所運営に係る医師、薬剤師、獣医師などの専門職の人材確保や、移行準備経費、移行後の人件費等に係る財政面の問題など精査すべき課題もある。

来年4月に中核市に移行予定の山形市や、今年4月に移行した松江市および福島市の市長の声を直接聞く機会があったが、市民に対するメリットは非常に大きく、県都であれば移行する価値はあるとのことであった。

風格のある県都を目指す津市の市長として、中核市に向けての検討を加速したい。

●その他の質疑・質問●

- 法律なき津市の決め事（市の花・木・鳥など）について
- 津市はブラック企業になっていないか。過度な長時間勤務を課していないか
- 香良洲漁港の堤防は安全か。場所によって高さが異なるのはなぜか
- 道徳教育と国教の関係は



▲市民の幸せのために中核市への移行を